

留学報告書

～外から見て気づいた日本のすばらしさと影響力～

ボーリンググリーン州立大学

外国語学部（長期）

アメリカのオハイオ州にあるボーリンググリーン州立大学に留学していました。アメリカでの8か月間の生活は、正直大変でした。しかし、楽しかったことや嬉しかったことはそれ以上にあり、沢山の人と交流し、日本ではできない様々な体験ができたことは、私にとっても、人生においてもとても貴重で素晴らしいものになったと思います。今回の留学を通して一番感じたことは、日本の世界でのすばらしさと世界での影響力です。様々な場面でこのことについて感じたのでそれについて話したいと思います。

まず、授業中です。秋学期と春学期を通して様々な分野の教科を履修しましたが、どの分野を勉強するときも日本の国名や日本についての話題は必ず触れられていました。例えば、文化人類学では、日本の和室文化、食文化などです。ポップカルチャーでは、アニメや音楽、環境学では、地震や火山、津波や原発、ツーリズムの授業では、沢山の観光地や交通機関などです。私の日本に対するイメージは、世界の中でも小さな国という物だったので、世界での日本の影響力の大きさに驚きました。授業中のディスカッションの中でも、日本についてみんな好印象で、行ったことがある人もいれば、これから行く計画を立てている人や行ってみたいと思っている人が多くとても驚きました。これらの一番大きな理由がアニメの影響力です。みんな自分よりもアニメに詳しく、アニメを通して、場所を知ったり、食べ物を知ったり、言葉を知ったりする人が多く日本に興味を持ってくれる人が多くとても嬉しかったです。ボーリンググリーン州立大学では、日本語の授業がありそれを履修している人が多く、週に数回日本語のチューターとして練習をサポートしました。名古屋学院大学で日本語教員養成プログラムに入っていたので、日本語を実際に教えるということは、とても良い経験になり、帰国後の授業でも実際の現場をイメージしながら授業に臨めると思います。自然と身についた母国語の日本語の文法を説明するということは想像以上に大変で、教える側が学ばされることも多かったです。彼らの日本語の勉強に対する熱心さも同じ言語の習得を目指している立場として見習うことが多かったです。

授業以外には、Japanese Club に所属し、積極的に活動を行いました。このクラブには日本に興味がある人が集まりますが、私は主に日本人としてできる文化や食べ物などをプレゼンしたり、実際に作ったりしました。お月見、ハロウィン、クリスマス、お正月、バレンタインデーなど説明もしましたが、それぞれのイベントの歴史的背景や目的を知らなかったのも逆に勉強になりました。折り紙を英語で教えたり、お好み焼きをみんなに振舞ったりしました。四月には、お花見パーティーという大学内でも大規模なイベントが毎年開催されていて、日本の祭りをイメージしたヨーヨー釣りのブースがあり、習字、折り紙、剣玉、着物の着付けなど様々なブースも準備しました。私は折り紙コーナーでリーダーとして運営しました。折り紙はとても人気で、日本の文化の一つである折り紙を実際に直接教えることができたのはとても良い経験になりました。イベントの途中では、日本人学生と現地の有志の学生でソーラン節を踊りました。当日まで、授業終わりにみんなで集まって毎日練習しました。当日は、とても緊張しましたが見ている人も一緒に踊ってくれたり楽しんでもくれたりしたので頑張った良かったです。今の時代、インターネットやYouTube など日本について知ることは、とても簡単ですが、クラブやイベントを通して日本の文化や食べ物、歴史的伝統的なことを実際に日本人としてたくさんの人に説明し知ってもらえたことは、とても良い経験になりましたし、クラブやイベントまでの準備も含めてとても思い出に残る楽しい日々でした。



春休みには、一人でシアトルとポートランドを旅行しました。この旅行中では、とにかくいろんな人と話そうという目標をもって旅行しました。授業中は緊張して英語をうまく話せず、ついていくのに必死でしたが、旅行中は、ストレスなく英語でたくさんの人と交流できたと思います。わからないことをスマホで調べずとにかく聞いてみるという作戦を立ててそこから話が弾みました。ホステルのラウンジで出会った人も初対面ながらご飯を食べながら2時間くらい話しました。その方は日本に何回も言ったことがあるそうで日本の良さや好きなことについてたくさん話してくれました。初対面でも年齢や国籍関係なく交流できることがとても新鮮で日本では味わうあまり味わうことができない瞬間でした。また、シアトルには、航空機の製造会社であるボーイングの工場があり、工場見学ツアーに参加しました。ボーイングの機体の部品の一部は、日本で作られていてセントレアから輸送されていることを知っていたので、実際に現地で見るのができていい思い出になりました。改めて、日本の技術力の高さに驚かされました。シアトルには、Amazon 本社やスターバックス一号店、マイクロソフト本社などの世界的に有名な会社がたくさんあり、アジア圏からの直行便が多いためアジア人も多くいろんな人種が入り混じった魅力的な都市でした。



最後に、長いようで短い8か月間でしたが、アメリカでの生活を通して大きく成長できたと思います。8か月間の留学生生活を素晴らしいものにできたのは、英語がうまく話せない自分に仲良くしてくれた友達、自分と同じ交換留学の日本人学生、常にサポートしてくださった川野先生のおかげです。お世話になった方々への恩返しするためにも、自分自身さらに成長していくためにも、今後も様々なことに積極的に挑戦していきたいです。また、留学中に日本を外から見たり、沢山の人に日本について説明したりするときに日本人である自分自身が日本についてわかっていないことに気づきました。世界の色々な国に興味があり、文化の体験や人々との交流をしてみたいと思っていますが、その前に自分の国について知りある程度説明できることが大切だと感じました。残りの大学生活を使って、日本や海外の幅広い分野について学び知識をつけて行こうと思いました。

